

六厩産廃処分場計画について政治決断すべき!

創政・改革クラブ
岩垣和彦



問 荘川町六厩地内の産廃処分場建設計画が再提出された。國島市長はこれまでも「許認可権は県にあり、手続きの段階で地域住民の反対意見を伝える」と答弁されている。だが手続き段階で意見を述べても審査は着々と進む。2月に地元住民から市長へ「設置許可をしないよう働きかけて欲しい」との要望が再提出された。市長の政治決断は。

答 反対への思いは十分受け止めている。貴重な自然環境を鑑み最終処分場建設地として適地ではない。県に対し要望はしっかり伝えていく。



国内客回帰に向けたソフトインフラの整備とエリアマネジメント

創政・改革クラブ
中田清介



問 高山市は旅行者を意識した観光資源周辺の景観整備等、集客力と旅行者の満足度を向上させるソフトインフラをより充実させるべき。まちの厚みをつけ、住みたくなるような街で移動がしやすく、清潔で立ち寄りたくなる店がある、そうしたまちの形成である。市内への流入交通の抑制も含め、エリアマネジメントに留意して、市民にもっとアピールしていく必要がある。

答 市の取り組みは市民の生活環境の向上につながるものであり流入交通の抑制も含め市街地の課題解決に取り組んでいく。



森林・山村多面的機能発揮対策事業の取り組みについて

清和クラブ
松林 彰



問 地域住民や森林所有者等が協力して行う、里山林の保全や森林資源の活用を図る活動に対し、交付金が支給される事業を活用し、里山林を保全することは有害鳥獣との緩衝地帯を整備することになり、有効な対策になる。市独自に補助する対策を検討するべきではないか。

答 里山林保全活動については、主に地域住民が自主的に地域の里山林において整備活動を実施されるもので、地域環境整備やコミュニティ維持にも繋がる活動であり、今後も支援を進めながら市内各地域で実施団体が増えるよう情報提供にも努めていく。



人と人を結び地域や食の魅力を引き出そう!

清和クラブ
松山篤夫



問 地域で生まれた食文化は、その場所ならではの魅力となる。山の恵みや伝統野菜といった食材に加え、その土地ならではの発酵食、厳しい冬を乗り切るための乾燥食、保存食も風土が生み出した英知の結晶である。地域の食文化を一流にプロデュースするには外部の人を入れることも重要となる。食文化を生かした地域活性化に対する市の考えは。

答 市には地域の気候や風土に培われた地元野菜が多くあり、地域に根付いた食文化の高付加価値化や生産拡大を図るとともに、食文化の情報発信や販路拡大に取り組んでいく。



あきしまささげ